

No.98

平成25年1月1日発行

診断ひよろご

一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 発行者 相良 紘

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-8-4 神戸市産業振興センター8F
TEL (078) 362-6000 FAX (078) 361-8722 URL:<http://www.shindan-hg.com>

会員が主役

協会の積極的な活用を期待



一般社団法人
兵庫県中小企業診断士協会
副会長 柴谷 真治

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様、また当協会の関係者の皆様におかれましても、それぞれに新たな気持ちで新年を迎えたることと存じます。

さて、今年は平成25年です。年号が平成になって干支が二回りし、三回り目を迎える年でもあります。今年の干支・巳は、植物に種子ができるはじめる時期、草木の成長が次の生命を作りはじめる時期、というような意味もあるそうです（語源由来辞典より抜粋）。

当協会の昨年を振り返ると、主には以下のようなことがありました。それぞれ今後当協会が、より積極的な運営をするきっかけとなる出来事であったと思います。

一般社団法人としての新たなスタート

昨年の法人格の変更は、公益法人制度改革に対応したものではありますが、これまでの本支部制の中の一支部としての活動よりも自由度が高くなり、当協会独自の運営を実施する幅が広がりました。昨年は会員の企画による調査研究やセミナーなど、これまでになかった活動を実施しました。今後も新たな法人体制の利点を活かし、より積極的な協会活動ができるようにしていきたいと思います。

兵庫県立大学中小企業診断士登録養成課程の修了者の入会

兵庫県立大学の中小企業診断士登録養成課程は、最短2年間を修業期間として平成22年度に始まりました。昨年は本課程の最初の修了者が輩出され、その中から当協会に入会いただいた方々もおられます。今後も中小企業診断士の養成に携わられている同大学との関係を深めていきたいと考えております。

中小企業経営診断シンポジウムが関西で開催

例年東京で開催されている中小企業経営診断シンポジウムですが、平成7年以来17年ぶりに、昨年11月7日在大阪国際会議場で開催されました。本イベントには延べ500人を超える来場者があり、当協会会員にも第2分科会、第3分科会で地域の中小企業診断士の活動を発表していただきました。本イベントへの会員各位のご協力に改めまして、御礼申し上げます。また当協会は一般社団法人として独立した法人組織になりましたが、全国連合会を構成する社団法人中小企業診断協会の加盟組織で

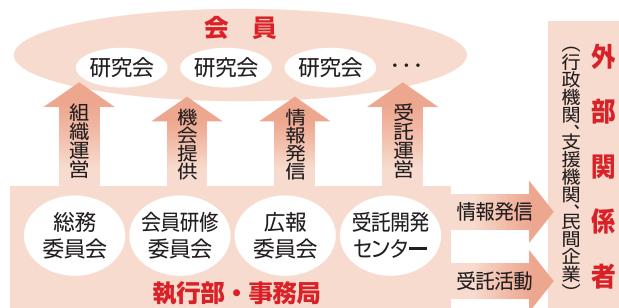
もあります。今後も旧支部時代と変わらず、全国組織からの情報を会員の皆様にお伝えするとともに、当協会の活動を積極的に全国組織に発信して参ります。

新たな受託活動

現在は公募の結果、約10名の会員に積極的に神戸市の製造業の調査を担当いただいている。本受託事業は本年度新たに神戸市と直接契約したものですが、会員各位の民間企業との接点を深めていただく機会にもなるものと期待しております。受託開発活動、広報活動を通じて、従来どおり行政機関や中小企業支援団体とのパイプを強めることに加え、民間企業にも中小企業診断士の認知度を高め、当協会の存在をよりよく知ってもらうことにも取り組んでいきたいと思います。

私の個人的な見方ですが、経営コンサルティングを進めるにあたって、「経営を実践する主役は経営者であり従業員である。中小企業診断士は経営の方向性、アイデア、取組手段を提供し実現に向けて支援する」という考え方で取り組む場合もあると思います。当協会も執行部が情報提供、機会創出に努めて参りますので、会員の皆様も企業内診断士であれ、独立診断士であれ、それぞれの立場で自らを主役として、積極的に当協会を盛り上げていただきたいければ、大変有り難く存じます。

経営から個々の専門性まで対応分野の広いわれわれの資格は、他の士業よりも「仲間」の重要性が高いと思います。よき先輩、よき仲間とともに、会員の皆様が積極的に本資格を活用するために、当協会を大いにご利用いただきたく、本年もよろしくお願い申し上げます。



年男 年女

投石 満雄（昭和28年生まれ）

若手診断士と呼ばれるのに違和感があった頃から数え、今年、20年目を迎えます。今では「どなたか、そう呼んでください」という心境です。おかげさまで20ヵ月先のお仕事を頂戴できている年の初めに、あらためまして皆様方に御礼申し上げます。



商業や農業、創業関連にはじまり、特許流通を含め幅広い業種での新規事業に携わらせて頂く中、「将来の皆様方や自分自身から、褒めてもらえるような目標設定に、今、取り組むことが肝要」と存じます。僭越ながら、“地域や企業、個人の方々を有機的・創造的に結ぶバイインダー”を目指します。

樽谷 昌彦（昭和28年生まれ）



明けましておめでとうございます。おかげさまで今年は還暦を迎える年ということで、シニア入りの年になりました。仕事の方は、長年勤めた地域金融機関を約6年前に退職後、経営コンサルタントとして独立し、中小機構近畿本部での地域資源活用の業務を中心にセミナーの講師などにも取り組み、おかげさまで今まで無事に続けさせて頂いております。次は、65歳の定年を目指して、仕事と趣味のバランスを取りながら新たな5年間の取り組みに着手せねばと考えているこの頃です。今後ともみなさんよろしくお願ひいたします。

亀井 芳郎（昭和28年生まれ）

昨年3月に兵庫県立大学の養成コースを卒業し、7月に入会した新人です。還暦年男の原稿が最初のご挨拶では初々しさがないので、年を隠して書こうと考えましたが、バックナンバーを見たら、名前の後に生まれ年があり、諦めました。しかし!コンサルタントとして独立してまだ4年、今年から診断士としてスタートを切る気持ちは36歳です。今年の課題は「セミナーの商品化」。1月オープンセミナーで「2代目社長として会社を上場させた経験を持つコンサルタントが語る 新米社長の経験から学んだこと コンサルタントになって気づいたこと」というテーマでデビューをします。よろしくお願ひします。



有岡 義洋（昭和40年生まれ）



今年が「年男」とは長く気づきませんでした。早いものですねえ。2005年に独立して8年が経とうとしています。

会社は、「環境技術・ノウハウを事業化する『仕組み創り』」がドメインです。現在は「日本の環境技術・製品をアジアなど海外市場へ展開していく」ご支援が急増しており、水処理やリサイクル分野で技術を持つ中小機械メーカーの販路開拓や事業立ち上げ支援を手掛けています。日本の中小企業が持つ、キラリと光る技術をアジアの環境ニーズにマッチングする活動で、本年も国内外を飛び回るつもりです。

今年もよろしくお願いします

●事務局からのあいさつ●



日下 藤吉

協会会員の皆様には大変お世話になっております。今、経済界は海外も含めて非常に厳しい状況の中で、企業活性化や新企画の提案等も含め、仕事に邁進し、頑張って活躍されている診断士の先生方に敬意を表します。新年を迎えて、心新たに協会発展の業務に励みたいと思っております。

田中 幸子

協会にお世話になつて5ヵ月になります。戸惑いながら現在に至っており、まだまだ業務に対する理解が足りません。協会員の皆様にご支援を頂きながら頑張ってまいりました。少しずつ勉強しながら前に進みたいと思っております。これからもよろしくお願いします。



兵庫県診断士協会のTwitterアカウントのお知らせ

ビジネスサプリ@
兵庫県中小企業診断士協会

@hyogoshindanshi

兵庫県診断士協会のTwitterアカウントです。フォローよろしくお願いします。

拡散希望の情報がありましたら、ダイレクトメッセージか、@hyogoshindanshi付きでツイートしてください。どんどんリツイートします。

第1回公募セミナーを開催

会員研修委員会主催の第1回公募セミナーが、24年10月13日に開かれました。セミナーは、うまく集客できなければ講師料が稼げるどころか赤字になることもあります。少額ですが講師謝金と会場費用、それに運営ノウハウも提供し安心してセミナーに取り組んで頂けます。独立間もないか、若しくは独立を考えている会員を講師として公募し、セミナーを企画・運営することを体験してもらう企画です。今回は高松留美、東松英司の両会員がお話しをされました。その内容を紹介します。なお、第2回公募セミナーは25年1月19日に開かれます。詳細は研究会スケジュールをご覧ください。



契約書の読み方が変わる60分

高松 留美

私は今年3月まで信用調査会社に勤務し、中小企業診断士の資格取得のきっかけも「仕事の役に立つから」というものでした。しかしながら、企業の信用状況を調査し、報告書を作成する「調査員」の仕事を通じ、規模の大小を問わず、さまざまな企業がそれぞれの課題・悩みを抱えていることを実感。「調査員」という客観的な立場ではなく、現場に即した企業サポートをしたい」という想いから、会社を退職しました。

公募セミナーのテーマである「契約書の読み方」は、調査員時代に感じた「取引を円滑に進めたい」という企業の想いをサポートすることを意識し、大学時代に専攻していた民法の知識を組み合わせ、企画しました。



今回の経験は、セミナー運営全般を体感でき、また中小企業診断士としての自己資産の棚卸しにもつながる貴重なものとなりました。調査員としての仕事を通じて得た「現場に役立つ情報」をより多く提供できるよう、自分のコンテンツをさらに深めていきたいと感じました。

あなたも出来る!農業支援

東松 英司



「今や日本の成長産業ともいるべき農業」と聞いて、どれくらいの方が納得されるでしょうか。おそらく、ピンと来ない方のほうが多いかと思います。しかし、成熟した現代社会において、今なお、大きな成長の余地が残されているのが農業です。農業は今、最も可能性を秘めた産業の一つと言っても過言ではありません。

新たなビジネスも続々と誕生しています。例えば、女性だけで組織する農業生産法人としてスタートした「山形ガールズ農場」や、山あいの片田舎を年間来場者数50万人の農業テーマパークへと変貌させた「伊賀の里モクモク手づくりファーム」、全国各地の耕作放棄地を体験農園として再生し、多くの市民に提供している「マイファーム」など、枚挙にいとまがありません。

一方で、皆さまがご存知のとおり、農業がさまざまな問題を抱えているのも事実です。スペースの関係上、ここでは割愛させていただきますが、それらの問題の原因としては大きく二つの要因が考えられます。まず内因的要因として、「農業者の経営感覚の欠落」です。計画性のない生業としての農業をしている農業者が多く、成長・改善が進んでいません。そして、外的要因が多く起因しているのが、「日本の農業は弱いという先入観」です。この先入観こそが元凶であることに日本人は早く気付くべきです。

これらの原因を排除し農業を成長させていくために、私たち中小企業診断士にできることは少なくありません。農業の世界にいま最も必要とされているのは、他の産業で培われてきた経営ノウハウです。例えば、生産管理の手法や原価管理・利益管理の視点、労務管理や人材育成の仕組みづくり、マーケティングの考え方、といったものです。あるいは、新たなビジネスモデルを構築していく力としての事業計画作成支援などです。まさに中小企業診断士が得意とする領域ではありませんか!

農業に興味がある方も、今まで農業に関わったことのない方も、是非一度、日本の将来を担う農業支援にチャレンジしていただければ幸いです。

乾、藤尾両会員が分科会で成果を発表

「中小企業経営診断シンポジウム」、大阪で開催

平成24年11月7日(水)、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)において24年度「中小企業経営診断シンポジウム」(社団法人中小企業診断協会主催)が開催されました。当協会からは、乾竜夫氏が第2分科会(会員グループ等による調査・研究)、藤尾政明氏が第3分科会(近畿発!成功支援事例)で、それぞれの研究・支援事例を発表しました。

姫路市家島町の観光振興支援

藤尾 政明



「中小企業経営診断シンポジウム」第3分科会において、平成23年度に姫路市商工会から依頼を受けた姫路市家島町の観光振興支援について発表いたしました。

家島町は、姫路飾磨港から高速艇で約30分の距離にあり、大小40余りの島からなる素晴らしい景勝により、昭和22年に瀬戸内海国立公園に編入されています。また、漁業資源が豊富で、瀬戸内の素晴らしい眺めを楽しむこともできることから、観光地として、海洋レジャー・リゾート地としての魅力を持ち、また島内には名所・旧跡が点在するロマン漂う島でもあります。

家島町には有人島が4島(本島、坊勢島、男鹿島、西島)ありますが、現地調査において4島それぞれに違った個性と魅力があることを痛切に感じました。それぞれの島は、極めて近接しているにもかかわらず、島民の生活文化は大きく異なっています。

4島の中で本島はある程度市街化していますが、坊勢島は漁業一色の感があり、男鹿島は人口が極めて少なく最も離島感があります。

したがって、家島町として一括りにして観光の魅力度を評価し、あるいは観光戦略を練ることは決して適切であるとは言えないことから、当支援では4島それぞれの基本戦略を策定しました。

家島に共通して言えることは観光地として洗練されているわけではなく、狭い島であるがゆえに常に島民の生活を身近に感じることができることです。また、島民も来島者を観光客として特別視することはせず、ごく自然に接する風土があるため、来島者にとっては懐かしさを覚えます。

ただ、これらの家島の特長は、他の観光地と同様の期待を持って来島した観光客には、ともすれば期待外れとなることも否めません。来島する観光客に家島の良さを十分に堪能していただきリピーターとなっていたくためには、4島それぞれの特性に見合った戦略が必要であり、それを観光従事者の方が共有する必要があるとの結論

に至りました。

当支援は、報告書も含めて、姫路市商工会から高い評価をいただき、今年度も継続支援の依頼をいただくことになりました。

これは男鹿島を観察した際に島の老人からお聞きしたことですが、50年近く前(定かではない)、男鹿島に海水浴に来たお客様が帰る際、島の人がお客様と一緒に船に乗り込み、船が岸からかなり離れた時点で、あらためてお客様にお礼を述べ、「また来てくださいよ」と言って、船尾からスクリューの向こうへ飛び込んで島に泳いで帰るといったことをおこなっていた時期があったようです。

これは当時としては、島に来てお金を使ってくださったお客様への精いっぱいのもてなしであり、男鹿島独自のものてなしのスタイルであったと考えられます。

現在においても家島にふさわしい独自のものてなしのスタイルを構築していく必要があると考えましたが、具体的なものてなしのスタイルまでは提案できませんでした。今後、家島観光事業組合、商工会が音頭を取って、それぞれの島の事業者が連携して、その島に最もふさわしい、インパクトのある独自のものてなしのスタイルを作っていくこともお手伝いしていきたいと思います。

発表時間は25分と限られた時間でしたが、全国から集まった中小企業診断士の多くの仲間を前に支援事例を発表したことはいい経験になったと感じております。最後に第3分科会の発表者として優秀賞をいただきました。



▲ 藤尾さん:前列左から2人目

姫路市北部3町（香寺町、夢前町、安富町）活性化に関する調査報告

乾 竜夫



1. はじめに

「中小企業経営診断シンポジウム」に、第2分科会発表者として参加してきました。第2分科会は、平成23年度の「診断協会各都道府県協会および会員グループによる調査・研究事業報告書」に

関する論文を募り、その中から入選を4編以上選んで発表を行うという分科会です。奈良、大阪、兵庫、徳島、山口、東京の6協会の論文が入選を果たし、発表の機会を得ることができました。

平成23年度の兵庫県の「調査・研究事業」は、私が所属する地域産業活性化研究会（以下、地域研）が行いました。姫路市北部3町を対象に、観光を軸にした地域活性化の調査・研究を行い、「姫路市北部3町（香寺町・夢前町・安富町）の活性化に関する報告書～花・緑・湯煙香り心安らぐ夢の古里ひめきた～」というタイトルで報告書をまとめています。

調査研究の内容については、同じ地域研メンバーの西口会員が「診断ひょうごNO.96」で報告していますので、今回は、発表に至ったいきさつ、発表に際して苦労した点、発表して良かった点についてご報告したいと思います。

2. 発表に至ったいきさつ

第2分科会への応募を言い出したのは私でした。企業診断ニュース2012年8月号で、昨年度の「診断協会各都道府県協会および会員グループによる調査・研究事業報告書」に関する論文を募集しているのを読み、「これはチャンスだ！」と思いました。「中小企業経営診断シンポジウム」は、年に一度、診断士が経営診断に関する研究成果を発表する全国大会というのが私の認識です。ですから、第2分科会で発表する機会を得ることができれば、地域研および兵庫県診断士協会のアピールに少しでも役立つのではないかと思ったからです。

また、事前に「入選いけるんじゃないの」という読みがありました。そう考えたのは、調査・研究内容に自信があったことと、大阪開催ということで、ホームチーム・アドバンテージが働くだろうと予想したからです。

地域研では、姫路市北部3町より前に、相生市、猪名川町を対象地域に選定して、観光を軸にした地域活性化を調査・研究しており、そのノウハウを深化・蓄積しています。昨年度の姫路市北部3町の調査・研究結果は、当地の行政・事業者の方々に対しても報告会を行い、高い評価を得ています。その結果、継続支援のオファーを受け、正式に支援の契約を結ぶことができています。

ホームチーム・アドバンテージについては、真相は分かりませんが、入選6編のうち半数の3編が関西の協会だったことを考えれば、あながち的外れな考えではなかったかと思っています。

3. 発表に際して苦労した点

応募論文として、調査・研究事業報告書を要約したものを作成しなければなりません。ワープロ原稿A4判40字×30行で10枚以内という制限がありました。正規の報告書は、ワープロ原稿A4判で100ページ超あるので、約10分の1に要約しなければなりません。応募論文は、昨年度地域研会長だった伊藤康雄理事が作成したたたき台を私が仕上げ、メンバー全員から意見をいただいて完成させるという流れで作成しました。伊藤理事が持ち前の文章構成力で要点をうまくまとめ、私が元の図表を作り直したり、文章を表形式に加工したりして、やっと10枚以内に納めることができました。

また、発表用のプレゼン資料の作成にも苦労しました。応募論文は「提言」部分を中心にまとめたのですが、プレゼンでは、「提言」の根拠である「調査・分析」部分についても十分にお伝えしたいと考えました。その結果、プレゼン用のパワーポイントのスライドが最初は30枚を越えてしまい、とても30分という時間枠で発表を終えることができない状態でした。発表日の直前まで調整をかけ、何とか30分以内で発表できる分量に抑えることができました。

▼乾さん:後列一番左



4. 発表して良かった点

大阪国際会議場という大きな舞台でプレゼンテーションを行うことができたのは、私自身勉強になり、本当に良かった点です。このような機会を与えていただいた地域研のメンバーには、心より感謝しております。

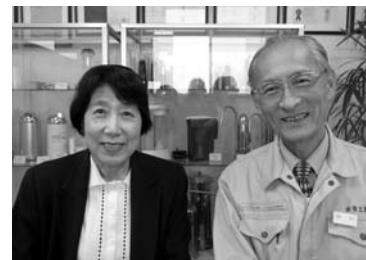
また、応援に来ていた兵庫県診断士協会の方々から、発表前には「がんばってください」、発表後には「良かったですよ」と、温かいお言葉を掛けていただいたことは、とてもうれしく、励みになりました。改めて、発表して良かったなと思いました。

最後に、副賞をいただけたのも良かった点です。地域研では、毎年3月に泊まりがけで打ち上げを行いますが、その時の宴会が例年よりも豪華になることを今から楽しみにしています。

新連携認定企業紹介

人と地球にやさしい水づくり

水青工業株式会社



水青工業株式会社は、「ノロウイルス、新型インフルエンザにも有効なオゾン水手洗い器の商品化、事業化」をテーマに2008年「中小企業新事業活動促進法 異分野連携新事業分野開拓計画(新連携)*」の認定を受け、オゾン水手洗い器(特許第4637885号他)を開発、製造販売している。その他、あましんグリーンプレミアム(2011年11月)や公益財団法人ひょうご産業活性化センターの成長期待企業、経営革新計画の認定を受けている。

*新連携認定制度の詳細 <http://j-net21.smrj.go.jp/expand/shinrenkei/index.html>

松川社長(左)と西村専務

オゾン水手洗い器の開発

同社は、家庭用浄水器のOEM生産等を行っていたが、大手企業の寡占化や特定商取引法の改正による家庭用浄水器の訪問販売活動の停滞等の課題があった。そのため、2004年、さらに差別化が可能な電気分解式オゾン水生成装置の開発に着手し、2007年には、本格的なOEM製造が可能となった。さらに小型化した製品開発を行う際に、取引銀行からの助言で新連携制度を知り、認定製品である「オゾン水手洗い器」の開発計画において新連携の認定を目指した。「小型コンパクト」で「安価」を実現し、ノロウイルスや耐性菌などにも有効な手洗い専用型の「オゾン水手洗い器」および医療機関向け「手洗い兼用型オゾン水装置」の製造・アフターサービスを提供している。

オゾンには、①殺菌、②脱臭、③脱色、④酸化・分解、⑤生物活性・鮮度保持の5つの作用があり、オゾン水は、細菌、酵母、カビ、ウィルスなど広範囲の殺菌が可能で新型インフルエンザ対策にも有効だと期待されている。また、すぐ酸素に戻るため残留性がなく、有害副生物を生じない。塩素系殺菌剤では耐性菌が出現するが、オゾン水は細菌の細胞膜を破壊するため、耐性菌をつくらない、手荒れをおこさないなどの特徴を持つ。

競合製品には、殺菌剤、アルコール手洗い器、次亜塩素酸水生成装置、強酸性水生成装置、オゾンガス生成装置がある。しかし、殺菌剤はノロウイルス等効果がないウィルスがある、塩素系の製品は耐性菌に対応ができない。オゾンガス生成装置は取り扱いに注意が必要であり、これらを解消した新製品は優位である。近年では同社製品と同様の製品も開発されているが、オゾン水生成濃度をその都度計測し、計測器や機器のマークの色の変化で確認できるようにしているのは当社製品のみである。

新連携とは、「事業の分野を異にする事業者が有機的に連携し、その経営資源(設備、技術、個人の有する知識及び技能その他の事業活動に活用される資源)を有効に組み合わせて、新事業活動を行うことにより新たな事業分野の開拓を図ること」である。

この事業では、水青工業株式会社がコア企業となり、有限会社アール・ジーン(兵庫県小野市)、日科ミクロン株式会社(埼玉県三郷市)の3社が連携体として、各社の経営資源の強みを持ち寄り、新事業を推進している。コア企業である同社が、大手メーカー出身の担当者(西村喜之・専務取締役)の経験・ノウハウを活かした製品の企画・設計からアフターサービスまで、事業を統括し、装置運転ソフトの開発をアール・ジーン、装置販売を医療・介護分野における感染防止装置の販売で実績のある日科ミクロンが担当している。



小型オゾン水生成装置

新連携制度認定後のメリットとリスク

新連携の認定を取得したことにより、取引銀行や外部機関からの信用が大幅に向上した。また、「直接電解オゾン水の特性、安全性ならびにその原水の最適性状試験」等の試験やニーズ調査の費用に認定企業向けの支援策のひとつである「ものづくり中小企業製品開発等支援補助金」を活用することができた。WEBでは「SBIR企業PRデータベース」等にも掲載され、展示会や出版物、プレゼンテーション等情報発信の機会が増加した。しかし、その反面、計画が認定された技術内容は広く公表されることになるため、同業他社等への開発情報の提供となるリスクがある。

今後の事業展開

小型の「オゾン水手洗い器」を介護施設等に納入するほか、「手洗い兼用型オゾン水装置」の医療機関への営業強化、さらに神戸製鋼所とのライセンス契約による大型機の製造・販売を計画している。

また、卓上で簡単に水素水を生成することができる「水素水ポットミラクルファウンテン」や保湿スプレーとして使用する弱酸性軟水還元ミストを繰り返し生成することができる「水²S・H・E(みずみずしい)」等の自社製品の販売を強化する。



医療機関向けオゾン水生成装置

中小企業診断士に求めること

最後に、中小企業診断士に求めることをお伺いした。経営者は孤独であり、経営に関する意思決定が主観的なものになりがちである。最終的な意思決定は経営者が行うものであるが、中小企業診断士には客観的な意見を聞きたいと思っている。

当社では、中小企業診断士が顧問となっており、定期的な経営相談を行っている。

(常任理事 宇田名保美)

会社名：水青工業株式会社

住 所：尼崎市武庫之荘本町2丁目13番3号

U R L：<http://www.h2o-f.jp>

代表取締役社長：代表取締役 松川英子

創 業：1960年5月

資本金：1,000万円

従業員：11名

委員会報告 8月～12月

● 総務委員会

委員会開催日	主な議題
8月16日(木)	更新研修運営、新入会員ガイダンス運営、実務研修運営
9月12日(水)	更新研修運営、実務研修運営、名簿再編、会員向け事務サービス・プロジェクト企画
10月10日(水)	更新研修反省、会員名簿再編、会員向け事務サービス・プロジェクト進捗
12月12日(水)	—

【事業報告】
ビジネスコンビニ・プロジェクトは本年度予算の範囲内で実施。

● 会員研修委員会

委員会開催日	主な議題
8月6日(月)	公募セミナーなど今年度中のセミナー開催準備
9月3日(月)	理論更新研修での広報、新しい研究会立上げなど
10月4日(木)	協会活性化に向けた会員増・新研究会等への対応
11月5日(月)	青年部との連携等、委員会活動の活性化の取組み
12月3日(月)	—

【事業報告】
比較的新しい会員の積極的な参画を目指して「公募セミナー」「診断士祭り」などを新たに企画・開催。

● 広報委員会

委員会開催日	主な議題
9月10日(月)	診断ひょうご10月号校正 他
10月10日(水)	診断ひょうご1月号コンテンツ検討 他
11月26日(月)	診断ひょうご1月号校正 他
12月10日(月)	2013年度事業検討 他

【事業報告】
診断ひょうごの編集、県協会パンフレットの完成・シンポジウムでの配布、WEBにおける研究会情報提供。

● 受託開発センター委員会

委員会開催日	主な議題
8月7日(火)	受託の進捗状況の確認、神戸市の案件について
10月9日(火)	受託の進捗状況の確認、神戸市の案件について、青年部の活動について
12月11日(火)	受託状況の確認、来年度に向けての意見交換

【事業報告】
本年度予算12百万円を達成できる見込み。
本年度は青年部の活動を中心に、商工会議所・商工会との仕事が増える傾向。

会員向け事務サービスを充実

総務委員会では会員諸氏の事業遂行をサポートするため、本年度より事務サービスとして機器や備品の整備を進めています。現在使用可能なものは右の通りです。また、次年度以降におきましても印刷、製本機能の充実を計画しています。会員諸氏で右記に関する要望事項がありましたら、総務委員会までお知らせください。



事務サービス 利用機器・備品一覧

(平成24年12月現在)

利用機器・備品	使用料	備考
業種別審査事典	閲覧無料	
業種別業界情報	閲覧無料	
コピーマシン	10円／枚	A3、白黒
インクジェットプリンター	10円／枚	A3、カラー、(専用PCあり)
スキャナ	無料	A4対応
パウチラミネーター	無料	A4対応
ラミネートフィルム	20円／枚	A4、A5
ラミネートフィルム	10円／枚	ハガキ、写真サービス版、定期、名刺
プロジェクター	無料	事務所内での利用のみ可
シュレッダー	無料	A4、20枚、連続20分、CD可
紙折り機	無料	A4、二つ折り、三つ折り
裁断機	無料	A4
ラベル作成機	無料	

※使用希望者は事前に事務局までご連絡ください。

※事務所以外持ち出し禁止。

※利用料金は改訂される場合もあります(事務局連絡時にご確認ください)。



「平成24年度経営診断実務研修」は昨年9月1日に相良会長出席のもと開講式が開催されました。本年の受講者数は12名です。そのうち当協会会員が7名、非会員が5名です。指導員には、会員である土居宗一氏、河野勝利氏に担当していただいております。受講者は2グループに別れてそれぞれ2社の経営診断を実習します。受講者の多くは企業内診断士であります。9月から来年1月にかけて経営診断の現場を経験していただき、中小企業診断士としての知見と能力の向上に努めていただきたいものであります。

(総務委員会 奥村隆生)

研究会スケジュール

● オープンセミナー(会員研修委員会主催)

日 時	場 所	テ ー マ	問い合わせ先 : 078(362)6000 講 師
1月19日(土) 13:30~15:30	神戸市産業振興センター801号室 会費:1000円	公募セミナー テーマ①「中小企業の2代目社長と大企業出身の 参謀役のための即効経営改善法」 テーマ②「採用についていい人・ダメな人の見分け方伝授します!」	①亀井芳郎氏 中小企業診断士・MBA経営管理修士 ②小川雅弘氏 中小企業診断士・MBA経営管理修士
2月8日(金) 18:30~20:30	神戸市産業振興センター901号室 参加費:無料	日本経済と兵庫県経済について 「データから浮かび上がる現状と課題(仮)」	日本銀行神戸支店長 鈴木 健

● 診断技術向上研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
1月10日(木) 18:30~20:30			
2月14日(木) 18:30~20:30	兵庫県民会館 302会議室	農林漁業者への支援技術研究	参加者全員
3月14日(木) 18:30~20:30			

連絡先:加山晴猛 harukay@silver.ocn.ne.jp

● 地域産業活性化研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
1月9日(水) 18:30~20:30	協会事務所	姫路市4町事業実施状況調査方法の検討	参加者全員
2月6日(水) 18:30~20:30	協会事務所	姫路市4町事業実施状況調査結果の検討	参加者全員
3月6日(水) 18:30~20:30	協会事務所	報告会に向けて	参加者全員

連絡先:伊藤康雄 ito-ya@msc.biglobe.ne.jp

● オンリーワン経営研究会(HOO)

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
1月28日(月) 18:00~20:00	協会事務所	H25年活動計画の検討	参加者全員
2月15日(金) 13:30~16:30	東海バネ工業(株)工場	オンリーワン経営研究会 10周年企画「東海バネ工業(株)工場見学会」	東海バネ工業(株) 代表取締役 渡辺良機氏

連絡先:福島繁 sa3888@pearl.ocn.ne.jp

● BSC研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
1月25日(金) 18:00~20:00	協会事務所	経営改善目的BSC構築ワークシートの作成、及び 導入支援のスキルアップ。(TOCを活用した中核 問題抽出手法及びその解決策策定手法の開発。)	参加者全員

連絡先:奥村隆生 okumura@cvn.bai.ne.jp

● プロコンスキル研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師(進行役)
1月 8日(火) 18:30~20:30	神戸市産業振興センター	経営支援の事例研究	中小企業診断士 西口延良
3月12日(火) 18:30~20:30	神戸市産業振興センター	経営支援の事例研究	中小企業診断士 内藤 敏

連絡先:柳辰雄 jiritsu@dioib.com

◇ プロコン育成塾

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
1月19日(土) 10:00~16:45	神戸市産業振興センター 905号室	説得力を高めるプレゼン方法、報告書の書き方 独立1stステージにおける公的機関の仕事	湯浅 伸一 柳 辰雄
2月16日(土) 2月17日(土) 10:00~16:45	神戸市産業振興センター 802号室	経営診断報告	

※研究会ではありません。有料のセミナーです。

※問い合わせ先:事務局(志水、東松) procon-ikuseijuku@email.plala.or.jp

イベント情報

タ イ フ	日 時	場 所	会 費	内 容
第2回ひょうご青年合同フェスタ	1月30日(水) 14:00~20:00	神戸商工会議所 神商ホール	7,000円	①ワールドカフェ「いい会社づくりのヒント」 ②懇親交流会
企業内診断士のイベント 企業内診断士祭り	3月9日(土) 13:00~17:00 (懇親会 ~20:00)	兵庫県民会館 「福の間」	1000円 (どなたでも参加できます!) ※懇親会費込み	企業内診断士祭り ①基調講演 加藤産業株式会社 代表取締役社長 加藤和弥氏 (仮題)「経営を学ぶこと、活かすこと」 ②そのほか企業内診断士が気軽に集まれる イベントを検討中です

編集後記

会員の皆様明けましておめでとうございます。昨年は国内外を問わず政治・経済情勢の変化のスピードが早く、先行きが一段と不透明な状態になった1年だったのではないかでしょうか。そんな中、ロンドンオリンピックでは過去最多のメダルを獲得、特に団体種目でのメダル獲得からチームとして成果を上げることに対して何か感じられた方も多かったのではないかでしょうか。会員の皆様が公私ともに充実した1年が過ごせますようお祈り申し上げます。本年もよろしくお願ひいたします。(ふ)